

昭和  
自  
三  
年  
至  
一  
月  
一  
日

太平洋問題調査会関係件  
十  
卷

記  
録  
至  
年  
月  
日

太平洋問題調査会関係件

十

B  
10  
7  
0  
3

B-1077

0380

B. 10. 1. 03

昭和二十年一月二十二日

第九回太平洋問題調査會會議ノ概況  
(The 9th. Biennial Conference of the Institute  
of Pacific Relations, at Hot Springs, Jan. 1945)



取扱注意

政務局第六課

目次	頁
一 概説	一
二 議題及代表	一
三 會議ノ經過	三
(イ) 「ター」ノ開會演説	三
(ロ) 日本處理問題	四
(ハ) 太平洋植民地ノ將來	一〇
(ニ) 太平洋地域ノ經濟復興問題	一五
(ホ) 太平洋集團ノ安全保障問題	一八
四 觀察	二〇

B-1077

0381



一、概説  
太平洋問題調査會（The Institute of Pacific Relations）の  
九回會議ハ十二ヶ國代表及「オプン・ドア」(英、米、佛、蘭印、重慶、加  
奈那、印、澳、新西蘭、比島、「自由」泰、朝鮮)二百餘名参加ノ下ニ一月六  
日ヨリ十日間「ハット・ト・スプリングス」(「ワシントン」州)ニ開カレ、戰  
後太平洋ノ安全保障及經濟開發「ヲ」主トシテ討論ヲ行ヘ、ハカ、戰  
後ノ日本處境問題ハ最も重要ナル議題タリシモノ、如ク三日間ニ  
亙リ活潑ナル議論ヲ現出セリ

二、議題及代表  
「戰後太平洋ノ安全保障及經濟開發」ヲ主トスル各個議題左ノ  
如シ  
1. 一九四四年度太平洋諸國ニ於ケル主要ナル發展  
2. 日本ノ將來  
3. 支那ノ重慶、蘭印、暹州ノ經濟復興ノ過程  
4. 文化的、人権の關係  
5. 戰前、從屬國(植民地)ノ將來  
6. 太平洋集團の安全保障問題  
代表ノ中判明シ居ル者左ノ如シ  
R. J. F. Boyer  
Edgar L. Tarr  
Horace Belshaw  
Mrs. V. J. Pa ndit  
（暹州放送局幹部）  
（「キング・オブ・カナダ」理事）  
（「オークランド」大學教授）  
（「シオワハイランド・ネール」妹）

比島  
H. N. Kusru  
Tiba no A. Zafra  
Solomon Arnaldo  
Leonidas Virata  
（「サー・サン・オサイシ」委員）  
（比島亡命政府經濟顧問）  
「自由」泰  
Seri Pramoi  
Henry de Young  
Paul Neglar  
（駐米「自由」泰公使）  
（華府朝鮮委員會幹部）  
（元駐米大使）  
（重慶赤十字社長）  
（前駐米公使）  
（I.P.R. 重慶部幹部）  
（在米實業家、「シンフィック」カ  
ウンシル」財政委員長）  
（前駐日大使館商務官、現駐米  
大使館東亞問題顧問）  
（外務省員）  
英國  
George Sansom  
Pa. Al Butler  
Air Marshal John Baldwin  
Andrew McRadyean  
Victor Farmer  
Captain K. D. Gamman  
Arthur Green Jones  
R. A. F.  
（英領北「ボネオ」會計理事）  
（在米「インディアン・タシカニ  
インダストリーズ」理事）  
（保守黨代議士）  
（労働黨代議士）

B-1077

0382

B-1077

0383

米 國

Major General Bissel  
John Carter Vincent  
J.A. Mackay (?)

印 蘭

Prince Mohammed Djumena  
Herman Jacobson

尚 國 際 聯 盟  
「 聯 合 國 」  
再 建 設 局  
モ ー オ フ ザ ー ヴ

三 會 議  
開 會 演 說

委員ニ當リ「P.R.」中央演説タル「パンフイック・カウンスル」  
I.P.R.ノ目的ハ太平洋地域ノ國際的理解ノ増進ニ在ルモ、太  
平洋地域ハ相互依存の世界ノ一部ナルヲ忘ルヘカラス、平和  
ヲ維持シ經濟的福祉増進ノ爲メ共同動作ノ原則ハ大西洋憲章  
莫新科宣言、武器管輿協定、「ダンバートン・オークス」協定等ニ採  
用セラレ、又聯合國各指導者ノ口ヲ通シ、續返サレ居ルニ拘ラ  
ズ、過去數ヶ月間ニ生起セル幾多ノ事件ハ相互的理解ト共通  
ノ目的ヲ缺ケ、示シ居リ、政策ト現格ト市俄古航空會議ノ實  
績ナル結果、經濟的福祉ノ爲メ共同動作ニ調スル國際協定ノ實  
行ニ力適例ナルカ、吾人等ハ失敗ヲ懼レテ自國ノ利益防  
衛ノ手段ニ力ヲ入レ、過キ問題ノ積極的解決ヲ尙殆ニ頻シクシメ

(ロ)

A 日 本 處 理 問 題

居ルニアラヌヤ、然リトセハ偉大ナル攻勢ノ成功ノ道ハ在セザ  
ルヘシ、特ニ大國從來ノ指導ハ人類ノ期待ニ副ヒ居ラス、諸國  
民ハ疲勞シ居ルモ決意ハ固ク恒久平和ノ唯一ノ保障タルヘキ國  
際協力ヲ高懸ラ排シテ確立セントスル指導ニハ欣然從ハントシ  
居ルモノナリ、  
X. 本件ニ關シテハ各演各様ノ見解續出サルカ、討議ノ焦點ハX  
シテハ主トシテ日本國體ノ處運ト日本ノ經濟的將來ニシテ、前者ニ關  
シテハ唱ヘ、諸代表モ概シテ同ヤルモノ、如ク日本ノ所謂「民主  
化」ニ付テハ異議ヲ見ス、後者ニ關シテハ戰爭直後ノ措置トシ  
テ兵隊工場ノ破壊、商船隊ノ制奪等ニ關シテハ異論ヲ見サリシ  
モ、日本ノ再軍備防止ノ見地ヨリ如何ナル期間管理スヘキカニ付見  
テ、及保持セシムヘキ工業ノ如何ナル期間管理スヘキカニ付見  
テ、一致ノ見解ニ對シテ例ヘハ「アルミ」工業ヲ存置スヘキカニ付見  
テ、代表ノ見解ニ對シテ重慶測ハ反對ヤリ、又「ボイラ」抑フヘキ資材ヲ  
ハ日本ノ機械工業乃至化學工業カ兵隊製作ニ用ヒ得ヘキ資材ヲ  
生産シ能ハサル如ク産業ノ「ボイラ」抑フヘキ資材ヲ  
度、電力業ニモ適用スヘキト、見モ有力ニ唱ヘラレタリ、但  
シ日本ヲ海外貿易ヨリ永久ニ遮斷スヘキト、主張ハ之ヲ見サリ



1. 新テ九日ニ至リ諸代表ハ次ノ八點ニ付キ「意見一致」ナリ  
 1. 民主主義的ノ日本ノ樹立  
 2. 略主義ノ廢止、Xノ退位及日本國民ニ依ル其ノ追放、但シ便  
 3. 一ヨリクシヤ「ホスト」所報、但シ別報ニ依レハ其ノ繼承者ニ  
 4. 復ル新印「憲法」ニ依ル國民ニ對スル言論及發言ノ自由、同  
 5. ハンヂイ「憲法」ハ日本人自身ヲシテXノ退位ヲ爲サシメサレ  
 6. ハ日本人民主權化ナルコト困難ナルヘシト述ヘ、加奈即代表  
 7. ハXノカ不可侵權ヲ帯有シテ復讐スルコトハ近代世界ト南立  
 8. ハスト述ハタリ  
 9. 一カイロ「宣言」ニ則ル帝國ノ解体  
 10. 即チ一九一四年以來日本カ取得セル太平洋ノ全島嶼ノ剝奪、  
 11. 日本カ支那ヨリ取得セル福州、臺灣、澎湖島等ノ重慶ヘノ返  
 12. 還、朝鮮ノ獨立化、琉球及千島ハ聯合國力戰際上海空軍基地  
 13. トシテ採用スヘキヲ以テ之ヲ放棄セシム（尙大多數ノ代表  
 14. ハ華太南洋ノ對蘇讓渡ニ贊成セル由ナリ）上記地域ニ在ル皇  
 15. 室及政府ノ財產ハ無償沒收シ居住日本人ハ悉ク日本本土ニ歸  
 16. 還セシム  
 17. 3. 日本本土ノ軍事占領  
 18. 占領軍ノ大部分（The major portion）ハ重慶軍隊トス、但シ占

領期間ハ日本ヲ新シテ國際組織ニ復歸セシムル目的ト南立シ  
 待ル限リ短期間トス  
 4. 艦艇及空軍ノ破壞乃至聯合國間ニ於ケル分配ヲ含ム（商船及  
 5. 漁船ノ將來ニ關シテハ意見一致ヲ缺クトノ別報アリ）  
 6. 賠償物資ニ依ル賠償  
 7. 賠償物資ハ第一ニ日本カ荒廢セシメタル地域ノ復興ニ充ツ、  
 8. 之カ爲一疋ノ輸出工業ヲ許容ス  
 9. 6. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 10. （註）報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 11. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 12. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 13. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 14. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 15. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 16. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 17. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 18. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 19. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 20. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 21. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 22. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 23. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 24. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 25. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 26. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 27. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 28. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 29. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 30. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 31. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 32. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 33. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 34. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 35. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 36. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 37. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 38. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 39. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 40. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 41. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 42. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 43. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 44. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 45. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 46. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 47. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 48. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 49. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 50. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 51. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 52. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 53. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 54. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 55. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 56. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 57. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 58. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 59. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 60. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 61. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 62. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 63. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 64. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 65. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 66. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 67. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 68. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 69. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 70. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 71. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 72. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 73. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 74. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 75. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 76. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 77. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 78. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 79. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 80. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 81. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 82. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 83. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 84. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 85. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 86. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 87. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 88. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 89. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 90. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 91. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 92. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 93. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 94. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 95. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 96. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 97. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 98. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 99. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 100. 報道自由化案（註）ノ日本國民ヘノ適用

B-1077

0384





(四) 太平洋植民地ノ將來  
 本國之討議ヲ通シ現レタル願望ナル傾向ハ亞細亞代表ノ植民地  
 ノ自治乃至獨立化ヘノ要請ニシテ「聯合國」ニ依ル植民國家廢止  
 宣言ノ提唱、一大國ハ植民地ヲ世界全体ノ委託ヲ受ケ之ヲ獨立ヘ

(五) 朝鮮問題  
 朝鮮人問題及日本技術者利用論  
 重慶首席代表及日本技術者利用論  
 支那ニ於ケル日本ノ占領地ニハ日本ノ「ヤスリング」タリシ  
 多額ノ朝鮮人アル處彼等ヲ在重慶朝鮮臨時政府ノ臣民トシテ  
 取扱フヘキヤ或ハ敵在日臣民トシテ取扱フヘキヤハ決定困  
 難ナル問題ナルヘシ、吾人ハ戰後日本ノ浸透ニ耐ヘ得ル如  
 キ強力ナル朝鮮政府ノ獨立計畫ヲ要請ス、戰後日本ノ熱源校  
 術家ヲ支那全土其他諸國ニ友好諸國ニ分散散勵セシムルコ  
 トハ日本重工業取崩問題ノ一解決策ナルヘシ、而シテ支那ハ  
 熱線丁ヲ復興ニ必要トスヘキモ彼等ヲ仕奉テ終ヘ熱線ノ塵ヲ  
 高メ日本ニ請ルコトハ危險ナルヲ以テ復興計畫ハ永久ニ止メ  
 サルヘシ

日本ノ經濟的將來ニ關シ一重慶代表ハ左ノ見解ヲ述ヘタリ  
 日本政府力有能ナル民主主義的指導ヲ行ヒテハ日本ハ  
 世界平和ヲ脅威スルコトナク對支貿易一本ニテ生存ヲ期シ得  
 ルモノナリ、地産的資源ニ依ルモ神ハ日本ヲ一等國タラシム  
 ルノ意思無カリシハ明ニシテ、余ノ見解ニ依レハ日本ハ二等  
 國ノ筆頭トシテ存在スヘキナリ

(一) 凡ユル基本的要求ヲ存續セシムルコトナルヘシ、  
 對日處理ノ要諦 (The first requirement) 一ハ舊來ノ制度ヲ廢  
 止シ日本國民ノ自由ナル意思ヲ以テ誘出セラルヘキ立憲的體  
 制ヲシテ新シキ民主主義ノ基礎ヲ獨立セシムルコトニアルヘシ  
 (二) 「ジョン・ボールドウイン」(英空軍元帥)ノ日本管理案  
 一日本本土占領軍ノ主体ハ亞細亞人トスヘキモ、別ニ英、米、蘭  
 三國カ佛海軍ヲ參加セシメテ日本周邊ニ國際海軍ヲ配備セ  
 ヲハ西歐諸國ハ日本本土ニ相當數ノ軍隊ヲ永キニ駐屯セシ  
 ムルニ及ハスシテ日本將來ノ侵略ヲ防止シ得ヘシ  
 (三) 日本ニ海外ノ市場ト資源ヲ利用セシムル方、之ヲ完全ニ外部  
 ヨリ遮斷シ國內資源ニ依存セシムルヨリモ日本ノ取締リヲ容  
 易ニシ同國ノ民主的發展ヲ促進スヘシ、兼シ聯合側ノ制海空  
 權ハ必要アラハ何時ニテモ日本ヲ市場及資源ヨリ切斷シ得ヘ  
 ク、又同國ヲ封鎖時代ノ昔ニ追込ミ國民ノ憤懣ト復讐心ヲ激  
 成スルノ危險ヲ回避シ得ヘキカ故ナリ  
 (四) 日本ノ航空機工業ハ廢棄セラレ民間航空ハ聯合側ノ航空機ト  
 操縦士ヲ以テ行ハルヘシ  
 (五) 財閥處罰論  
 戰爭犯罪者處罰ニ關シ軍閥ノミナラス軍閥ニ協力セル日本ソ  
 強力富裕ナル財閥ヲ其ノ情狀ニ應ジ死刑、拘禁、強制勞務等ヲ  
 以テ處罰スヘシトノ意見唱ヘラレ、大多數ノ代表ハ之ヲ支持セリ  
 (六) 重慶ノ戰後日本經濟論

B-1077

0386

ノ進歩ヲ促進スルカ如ク統治スヘシトノ條項ヲ「ダンバートン」  
 植民地及非植民國双方ノ專門家ヲ以テ一般國際機關ヲ作り大國ノ  
 植民地統治狀況ヲ査察セシムヘク(濠洲代表提案)且大國ヲシテ  
 統治ニ關スル報告ヲ定期ニ提出シシム、又該機關ニ植民地住民  
 ノ不應々研究シ其ノ結果ヲ公表セシムル權限トヲ賦與スヘ  
 シ(印度代表提案)トノ提案ハ之カ著例ナリ、右ニ對シ植民地保  
 有諸國ノ代表ハ各自國ノ統治ヲ自讀シ植民地ノ自治能力ノ認定ヲ  
 自國政府ニ留保スルノ態度ヲ持シ讓ラザリシカ、結局大多數ハ右  
 原則ヲ受諾セザルナリ

A、廣州灣ノ將來  
 佛代表「ナジャール」ハ廣州灣ノ將來ニ關シ左ノ趣旨ヲ述ヘタリ  
 廣州灣ノ問題ハ佛之間ニ於テ兩國ノ友好の傳統ニ立脚シ友好  
 的ニ解決セラルヘシ、佛國ハ英米ト同一ノ政策ヲ採リ一切ノ  
 不平等條約ハ廢棄セシムルモノナリ、全歐諸國ハ支那ニ  
 於ケル其ノ特殊利益ノ放棄ヲ計畫シテ、支那ハ偉大ナル將  
 來ヲ有スルモノナルカ、佛國ハ支那ノ完全ナル國家ヘノ發展  
 ヲ阻害スル如キ行動ハ欲セザルヘシ

B、佛印ノ將來  
 安南代表「Toa Kim-hai」ハ戰後ノ佛印ノ政治的地位ニ關シ佛印  
 ハ將來自治ト完全ナル自由ヲ希望スルモノナルカ、佛印戰亂最  
 近ノ植民政策ニ關スル諸宣言ハ佛本國カ佛印民衆ヲシテ佛國

(「ロモンウエルス」)ノ新シキ政治的地位ヲ享有セシメントノ意圖  
 ハ左ノ如ク補足セリ  
 佛國ハ既ニ法律的ニ佛印ノ關稅獨立ヲ認め居リ、將來ハ「ニ  
 ー」カレドニアト共ニ聯合國世界機關ノ一員タラシムルコ  
 トトナルヘシ、太平洋ノ佛屬領ハ戰後モ從前ノ地位ヲ維持ス  
 ルコトトナルヘシ

C、香港ノ將來  
 重慶代表ハ戰後香港ノ支那ヘノ讓渡ヲ要望シ新ル讓渡ハ英帝國  
 ニ惡影響ヲ及ボササルヘシト述ヘタルカ、英國代表ハ英國ニ割  
 讓セラレタル際人口僅ニ百三十人ナリシ香港カ百年後ニ於テ百  
 萬ノ人口ヲ誇ルニ至リ然モ其ノ大部分カ支那人ナル事實ハ英國  
 統治ノ價值ヲ實證スルニ足ルモノナリト述ヘ反對シタリ

D、「ビルマ」ノ將來  
 「ビルマ」代表「英代表部ニ屬スト認メラル」(Toong Aung Gyaw)  
 「ビルマ」代表「英政府顧問」ハ左ノ如ク述ヘタリ  
 「ビルマ」國民ハ英帝國ヨリ離脱スルノ意思無シ、舊シ「ビ  
 ルマ」ノ長延且脆弱ナル海岸線ハ英國ノ武力組織ニ依テスシハ  
 防備シ難ハサルカ故ナリ、「ビルマ」ハ今日猶英帝國ノ本質的  
 ナル一部ニシテ其ノ防衛ハ英國ノ責任ナリ、「ビルマ」  
 國民ノ次ノ目標ハ戰爭終了後數年ノ間ニ自治領ノ地位ヲ獲得  
 スルコトナルカ、自治領トナルモ「ビルマ」ハ英帝國ヨリ脱

ノ進歩ヲ促進スルカ如ク統治スヘシトノ條項ヲ「ダンバートン」  
 植民地及非植民國双方ノ專門家ヲ以テ一般國際機關ヲ作り大國ノ  
 植民地統治狀況ヲ査察セシムヘク(濠洲代表提案)且大國ヲシテ  
 統治ニ關スル報告ヲ定期ニ提出シシム、又該機關ニ植民地住民  
 ノ不應々研究シ其ノ結果ヲ公表セシムル權限トヲ賦與スヘ  
 シ(印度代表提案)トノ提案ハ之カ著例ナリ、右ニ對シ植民地保  
 有諸國ノ代表ハ各自國ノ統治ヲ自讀シ植民地ノ自治能力ノ認定ヲ  
 自國政府ニ留保スルノ態度ヲ持シ讓ラザリシカ、結局大多數ハ右  
 原則ヲ受諾セザルナリ

A、廣州灣ノ將來  
 佛代表「ナジャール」ハ廣州灣ノ將來ニ關シ左ノ趣旨ヲ述ヘタリ  
 廣州灣ノ問題ハ佛之間ニ於テ兩國ノ友好の傳統ニ立脚シ友好  
 的ニ解決セラルヘシ、佛國ハ英米ト同一ノ政策ヲ採リ一切ノ  
 不平等條約ハ廢棄セシムルモノナリ、全歐諸國ハ支那ニ  
 於ケル其ノ特殊利益ノ放棄ヲ計畫シテ、支那ハ偉大ナル將  
 來ヲ有スルモノナルカ、佛國ハ支那ノ完全ナル國家ヘノ發展  
 ヲ阻害スル如キ行動ハ欲セザルヘシ

B、佛印ノ將來  
 安南代表「Toa Kim-hai」ハ戰後ノ佛印ノ政治的地位ニ關シ佛印  
 ハ將來自治ト完全ナル自由ヲ希望スルモノナルカ、佛印戰亂最  
 近ノ植民政策ニ關スル諸宣言ハ佛本國カ佛印民衆ヲシテ佛國

B-1077

0387



E

退スル能ハス、長近ナル海峽、下ニ西、東、ハ稀少ナル人口ヲ以テシテハ、  
 版圖擴張ハサルカ故ナリ、乍然吾人ノ眞ノ防衛線ハ世界安全保障  
 機構ニアラズ以テ「ビルマ」ハ自治領ノ地位ヲ與ヘラレタル  
 後ハ右機構ニ代表ヲ派遣セント欲スルモノナリ

蘭印ノ立場

蘭印代表「ジユメナ」ハ左ノ趣旨ヲ述ベタリ

日本ノ東亞占領地ニ於ケル行動ハ其ノ言葉ヲ裏切レリ、日本  
 ノ獨立及其榮ノ約束「亞細亞人」ノ「亞細亞」ナル標語ハ蘭印民  
 衆ノ多クテ左右スヘシト考ヘタルヘシモ、日本占領地ノ現地  
 ニ於ケル行動ハ日本政府ノ爲セル約束ヲ一々否定セリ、「イ  
 ス」從ツテ客年九月日本首相ノ爲セル獨立ノ約束ハ過キ  
 キ民衆ハ之ヲ「アブリシエイト」ヤサリシ次第ナリ、然シ民  
 衆ハ日本軍力驅逐ヲラレタル後ハ西洋人カ其ノ約束ヲ實行ス  
 ラルヘキモ、和蘭女王ノ蘭印ニ對スル自治賦與ノ約束ハ留保  
 セントス

比島ノ立場

比島代表「グイラト」ノ所言及ノ如シ

比島ニ關スル限リ島民ノ總政府ニ對スル一貫ナル忠誠ハ「  
 レイテ」ニ上ニ限リタル「オスマニア」ノ下ニ「ゲリラ」部隊カ  
 結果ヤル事實ヲ以テシテモ明ナルヘシ、歐洲ニ於ケルト異リ

G

愛國的「ゲリラ」部隊ト「オスマニア」政府トノ間ニ紛争無  
 キハ「ゲリラ」指導者カ政府ノ重要ナル地位ニ即刻就カシメ  
 ラレ居ル事實カ證明スヘシ

泰ノ立場

「自由」泰代表「ブラモイ」ノ所言左ノ如シ

歐洲ニ於テ「ナチ」カ「デンマーク」ヲ其ノ「節リ」ト考ヘタ  
 ル如ク日本人ハ國初以來獨立國ナリシ泰ヲ亞細亞ニ於ケル其  
 ノ「節リ」窓「下」爲シ來レリ、國民ハ大ナル脅威ヲ受クルコトナク  
 其ノ財貨ハ掠奪ヤラルコトナク、國土ハ荒廢ヤシメラレ居  
 ラス、併シ國民一人殘ラス日本ハ清憲シ居リ暗征服者ヲ追  
 ヒ論スカラ有ササルノミ、「タイ」ハ自由ヲ奪味シ國民ハ此  
 ノ名ニ内心大ナル誇ヲ抱キ居レリ、日本軍ノ國土進駐ハ日本  
 中央部カ欲スルモノハ「日本」人ノ「亞細亞」ニシテ「亞細亞」人  
 ノ「亞細亞」ニシテ「日本」人ノ「亞細亞」ニシテ「亞細亞」人  
 尙東亞地域諸代表ハ日本ノ占領地行政ハ全般的ニ亂暴「フル」  
 タル「ナ」ナルノミナラス腐敗シ無能ナリトスルニ於テ「日」  
 本官吏ノ精神状態ト其ノ無智ハ一時ハ「共榮」ノ押賣者ヨリ何  
 物カヲ期待セル東南亞細亞ノ民衆ニ強ク印象ヲ與ヘタルモノナリ

ハ然ラスト此ヘタル由ナリ

H 殖民地問題ニ關スル「聯合國」宣言案

討議終了ニ際シ亞細亞諸代表ハ左ノ如ク提案ヲ試シ、大多數ノ支持  
 ヲ得タリ

B-1077

0388

リ、米國代表ハ支那ノ民主主義的発展ヲ發展セシメ其ノ成績上  
 カルニ至レハ米國其他ノ國ノ對支投資ヲ刺戟スヘシト述ヘタル  
 ニ對シ重慶代表ハ支那ノ共産黨ノ問題ハ孰レ解決セラルハキモ  
 民主主義ノ實現ハ七年半戰爭ニ憚ミ來レル國ニ於テハシカク簡  
 單ナルモノニアラスト應謝セリ

B  
 太平洋地域ノ生活水準向上  
 太平洋諸國ノ生活水準ハ技術ノ改善ト設備ノ改良ニ依ル資源ノ  
 開發ヲ以テシテノミ向上セシメラルヘク、右原則ハ農業、運輸  
 通信、公共事業、加工業等太平洋經濟ノ全部門ニ適用セラレサ  
 ルヘカラス、農業ノ發展ハ重要ナリト雖モ生活水準ノ實質的改  
 善ハ農業以外ノ經濟部門ノ工業化カ顯著ニ促進セザル限り不可  
 能ナリ、低生活水準ノ原因ハ農村ノ過剩人口ト農業ト工業トノ  
 間ノ不均衡ニ在リ、右ハ工業ニ準備ノ設備ヲ増大シテ農業ト  
 リノ不均衡ヲ改善ス、右ハ工業ニ準備ノ設備ヲ増大シテ農業ト  
 スノ如キ工業化ハ多額ノ資本投下ヲ必要トスル處太平洋諸國ノ  
 蓄積資本ノミヲ以テシテハ到底足ラス外資ヲ借入ル要アリ、外  
 資借入レカ不可能ナリトセハ一インフレニ政策ヲ以テ賄ヒ得ヘ  
 キモノ一インフレハ下層民衆ノ收入以上ニ勿論ヲ昂騰セシメ感  
 々生活水準ヲ低下セシムルノミナリ、爾餘世界ハ凡ソ原料ノ  
 ニ依リ資本財ニ對シテ需要ヲ増大セシムルカ先ツ凡ソ原料ノ  
 需要ヲ刺戟シテ資本財ノ需要ヲ増大セシムルニ依リ利

(二) 太平洋地域ノ經濟復興問題  
 A 本問題ハ英國代表「サンソム」ヲ議長トシテ討議セラレタルカ之  
 カ要領次ノ如シ  
 一、支那ノ經濟復興  
 支那代表ハ支那將來ノ經濟的福祉ハ民主主義的発展ヲ發展ヲ含メ、  
 長期的復興ハ政治的安定ヲ實現シ得ヘキヤ否ヤニ依存ス、從テ支那ノ  
 責任トス  
 二、聯合國ハ一ダンパートン、オク、ス、規定スル「總會」ノ全般  
 的責任ノ下ニ於テ一地域的範圍ニ限リ設置ヲ勸奨ス、右總會  
 會ハ太平洋ノ從屬的地域ニ關スル限リ宗主國ニ對シ其ノ支配  
 地域ニ自治制ヲ發展セシムル如キ全般的政策ヲ勸告スル權  
 限ヲ有スルモノトス、但シ右ニ關スル立法及行政ハ當該國ノ  
 一、聯合國ハ一民族（國民）カ其ノ先天的優秀性ノ故ニ他民族（  
 國民）ヲ支配シ或ハ他民族（國民）ノ保護者タルヘシト云フ  
 如キ漢良民族（「アスター・レイス」）ノ理論ハ排斥ス  
 二、聯合國ハ全民族（國民）ハ基本的ニ平等ナルヲ宣言シ、全民  
 族（國民）ヲシテ平等ノ利益ヲ享受セシムル如ク不斷ニ努力  
 スヘキヲ誓約ス  
 三、聯合國ハ殖民地及從屬國民衆對ニ一國ニ於テ完全ナル社  
 會的、經濟的、政治的權利ヲ享有セサル一切ノ民衆又ハ集團  
 ニ對スル普遍的國際責任ノ原則ヲ宣言ス  
 四、聯合國ハ一ダンパートン、オク、ス、規定スル「總會」ノ全般  
 的責任ノ下ニ於テ一地域的範圍ニ限リ設置ヲ勸奨ス、右總會  
 會ハ太平洋ノ從屬的地域ニ關スル限リ宗主國ニ對シ其ノ支配  
 地域ニ自治制ヲ發展セシムル如キ全般的政策ヲ勸告スル權  
 限ヲ有スルモノトス、但シ右ニ關スル立法及行政ハ當該國ノ

B-1077

0309



益スヘシ、但シ資本價値ハ物價ヲ以テ高サラルル虞右ニ由ルニ新  
規工業ノ發達又ハ財存工業ノ擴張ハ世界市場ノ發見ヲ必要トスヘシ、從テ太平  
洋地域ノ新資源ノ開發乃至技術ノ發達ヲシテ世界ノ進歩ニ寄與  
セシメントヤハ貿易障礙ノ除去ハ必須ナリ、乍然必要ナルハ不  
斷ニ擴大シ且過去ニ於ケル如ク深刻ナル景氣循環ノ影響ヲ受ケ  
ルコトナキ世界市場ノ確立ニシテ、右ハ國際協働ニ依リテノ實現ヲ得ヘシ  
C、貿易障礙ノ除去ト代替品ノ問題  
米國代表ハ太平洋ヲ含メ關稅其他貿易上ノ障礙ヲ漸次除去スル  
目的ヲ以テ特別ノ常設の世界組織ヲ設置スヘキ旨提言セルニ對  
シ諸代表ハ其レモ賛成ヲ表セリ、言説ヲ要約スルニ、自由貿易  
ニ對スル障礙ハ無難ニ存在シ之ヲ除去ハ複雜ナル問題ヲ提供ス  
ヘキヲ以テ世界の規模ノ組織ノミカ良ク之ヲ處理シ得ヘシトシ  
該組織ハ貿易規正ノ基本原則ヲ考案シ參加國間ノ貿易上ノ紛  
争ヲ仲裁スル權限ヲ有スヘシト云フニアリ、一部代表ハ本組織  
ヲ世界安全保障機構ニ「リンク」セシムヘキヲ提言セル處英、  
支、蘭印代表ハ之ニ贊同セリ  
戰争ヲ米國ニ發端セシメタル太平洋地域華山原料ノ代替品一例  
ヘハ合成纖維「ノ問題」ヲ討論セラルタルカ、英國代表ハ南太平  
洋地域ノ經濟ハ新原料「ニ依リ右邊經濟ヲ破壞スルカ如クハ不可ナ  
リト述ヘ、代替品ノ生産額減少ヲ希望セリ、右ニ對シ米國代表ハ  
米國ハ合成「ゴム」ノ生産額戰後モ持續スヘキモ生産ノ程度ヲ

今ヨリ豫定スルハ尙早ナリト應酬セルカ、米側ノ一般の意見ハ  
米國ハ戰争ニ起因スル幾多ノ技術的發明品ヲ戰後廢棄スルコト  
トナルヘク、代替品ノ「コスト」カ天然原料ヨリモ高クツク場  
合ハ特ニ然ルヘシトイフニアリ、英國ハ米國ハ貿易上ノ平  
等原則ヲ支持スル以上太平洋華山原料ノ非買力齋スヘキ經濟上ノ  
均衡破綻ト攪亂トヲ無視シ得サルヘキ旨ヲ強調シ、米國經濟カ  
戰後モ活況ヲ持續スルニ於テハ米國ハ輸入ヲ戰前ノ「レベル」  
ニ復シテ示唆セリ  
D、印度ノ經濟的發展  
印度ハ戰後ノ經濟的膨脹ヲ欲スルモノナルカ、右ハ爾餘ノ世界  
ノ利益スルコトナルヘシ、印度ノ經濟的自給ハ印度國民運動  
ノ目的ニハアラズ

(外) 太平洋集團の安全保障問題  
諸代表ノ見解ハ太平洋ノ集團の安全保障ハ「聯合國」ニ依リ組織  
セラルルニ限リ之ヲ所期シ得スト云フニ於テ一致ヲ示シ、又理想  
派ハ餘リニ多クテ企圖シテ失敗スヘシト見ル向キト、理想派ハ爲  
スコト少クシテ失敗スヘシト見ル向キトニ較シ、現實の處理ノ必  
要ヲ強調セラレタリ、各代表ノ見解次ノ如シ  
英國代表  
日獨ノミナラス恐ラク「聯合國」選舉會「ノ常任國」ヲ含メ如何  
ナル國ノ脅威ニモ對抗シ得ヘキ集團の安全保障ノ組織ニハ「一

B-1077

0390

四、觀察

會談ノ經過ヲ通觀スルニ中心の問題ハ戰後ノ日本處理ニシテ、太平洋ノ植民地ノ將來、經濟復興、安全保障機關ノ諸問題モ亦右ノノ  
 關聯ニ於テ前記トシテ、一九四三年加奈陀「モントリオール」ノ八回會談  
 於テ示セル其ノ強硬態度ヲ更ニ發展セシメ、特ニ「皇室ニ對シ奉  
 不敬」ナル言説ヲ爲シ、代表亦之ニ附和セリ  
 1 P R ノ「勸告」乃至「見解」ノ一致「ナルモノハ参加各國ノ公式  
 見解ニハテテ「勸告」乃至「見解」ノ一致「ナルモノハ参加各國ノ公式  
 モノト見テテテハ「勸告」乃至「見解」ノ一致「ナルモノハ参加各國ノ公式  
 名ノ代表ヲ簡拔渡米ヤシメ、在米要人ヲ合セテ強カナル代表部ヲ構  
 成センメタルハ、其ノ真ノ意圖ヲ察シ、在米要人ヲ合セテ強カナル代表部ヲ構  
 ナリ、即チ重慶ハ本會議ヲ利用シ、内米英ノ戰後企圖ヲ牽制スル  
 ト共ニ、外米國ニ對シテ、利用シタルハ、戰時情報局力之ヲ大々的ニ取  
 米國亦之ヲ對日宣傳ニ利用シタルハ、戰時情報局力之ヲ大々的ニ取  
 上ケタルヲ以テシテ、モ明ナル所ニシテ、國務省支那課長「ヴィン  
 セント」ノ代表中ニ加ハレルト相俟チ、石ハ太剛ノ意ヲ示シ、  
 ニ足ルモノナリ  
 次ニ會議ヲ通シ、南方諸地域代表ノ言説カ、控へ目乍ラ戰後ニ於ケ  
 ル獨立乃至自治ヘノ要望ヲ示スト共ニ、米英ノ強權再樹立ヲ必スシ  
 モ歡迎シ、居ラサルヲ示唆スルハ、深ク注目ニ値スル所ナリ

加奈陀代表  
 日滿ニ對シテ一定ノ經濟的拘束ヲ課スルコトニ依リ將來ノ戰爭ヲ  
 防止シ待ヘシ「全代表贊成ス」  
 重慶代表  
 泰國的安全保障成功ノ要諦ハ大國モ亦「聯合國運籌會」ノ決定  
 ニ「強スル」コト及、四乃至五ノ大國カ必ス協力スルコトナリ  
 然シ今日ノ亞細亞ハ西歐ニ於ケル如ク眞ノ指導者ヲ缺クテ以テ  
 未タ特別ナル安全保障機關ヲ設クル程度ニ達シ、唐ラサルモノト  
 思考ス、支那トシテハ佛國ト同様「カンバート」ニオークス案ノ如  
 キ世界の機構ニノミ参加セント欲ス  
 比島代表  
 吾人ハ「オスマニア」大統領カ最近提議セル「太平洋ニ於ケル  
 共同社會案」ヲ支持スルモノナリ、比島民ハ世界的乃至地方的  
 安全保障機構ヘノ参加ヲ熱望ス  
 印度、蘭印及「ビルマ」諸代表ハ國際機構カ歐洲乃蓋米國ノ獨權  
 ヲ基礎トセサル限リ之ニ參加ヲ希望スルモノナリト述ヘタルカ  
 「ビルマ」代表ハ「ビルマ」ハ自治領ノ地位ヲ與ヘラレサル限リ  
 實際上該機構ヘノ參加問題ヲ考究シ得ストシ、印度代表ハ亞細亞  
 ハ歐洲ト對等ニ動作スル爲該機構ニ參加スルニ先立テ先ツ自己  
 指導者ヲ必要トス、大國ハ印度支那ノ如キ國家ノ權力化ヲ援助ス  
 ヘトナリト述ヘタリ

B-1077

0391



B 10. 1. 03

昭和二十年一月二十二日

第九回太平洋通商調査會會議、概況  
(The 9th. Biennial Conference of the Institute  
of Pacific Relations, at Hot Springs, Jan. 1945)



取扱注意

政務局第六課

目次	頁
一 概説	一
二 議題及代表	一
三 會議の經過	三
(イ) 「ター」の開會演説	三
(ロ) 日本處理問題	四
(ハ) 太平洋植民地、將來	一〇
(ニ) 太平洋地域、經濟復興問題	一五
(ホ) 太平洋裏面の安全保障問題	一八
四 觀察	二〇

B-1077

0392

一、概説  
 太平洋問題調査會 (The Institute of Pacific Relations) 一九四四年度太平洋諸國ニ於ケル主要ナル發展  
 九回會議ハ十二ヶ國代表及「オプザヴァー」(英、米、佛、蘭印、重慶、加、  
 奈陀、印、豪、新西蘭、比島、「自由」泰、朝鮮)二百餘名参加ノ下ニ一月六  
 日ヨリ十日間「ホット・トマスプリングス」(「ワシントン」州)ニ開カレ、戰  
 後太平洋ノ安全保障及經濟開發「ヲ」主トシテ討議ヲ行ヘルカ、戰  
 後ノ日本處理問題ハ最も重要ナル議題タリシモノ、如ク三日間ニ  
 亙リ活潑ナル論議ヲ現出セリ

二、議題及代表  
 「戰後太平洋ノ安全保障及經濟開發」ヲ主トスル各個議題左ノ

- 如シ  
 1. 一九四四年度太平洋諸國ニ於ケル主要ナル發展  
 2. 日本ノ將來  
 3. 支那ノ重慶「蘭印」諸州ノ經濟復興ノ過程  
 4. 文化的、人権の關係  
 5. 戰前ノ從屬國「殖民地」ノ將來  
 6. 太平洋集團の安全保障問題  
 代表ノ中判明シ居ル者左ノ如シ  
 臺灣 R.J.F. Boyer  
 加京 Edger E. Tarr  
 新西蘭 Horace Belshaw  
 印度 Mrs. V.L. Pe ndit  
 (臺灣放務協會幹部)  
 (「シンク・オブ・カナダ」理事)  
 (「オークランド」大學教授)  
 (「シヤワハ」ラネール) 派

比 島  
 H.N. Kunzru  
 Urbe no A. Zafra  
 Solomon Arnaldo  
 Leonidas Virata

「自由」泰  
 Semi Premoj

佛 國  
 Henry de Young  
 Paul Naglar

重 慶  
 胡 適  
 施肇基  
 夏 含  
 李 欽

英 國  
 George Sanson

Pa ul Butler  
 Air Marshal John Baldwin  
 Andrew McFadyean  
 Victor Farmer  
 Captain E.H. Gammans  
 Arthur Green Jones

(「サウザン・オウインズ」)  
 (「サイヤン」)  
 (比島「命」)  
 (駐米「自由」泰公使)  
 (華府朝鮮委員會幹部)  
 (元駐支大使)  
 (重慶赤十字社長)  
 (前駐米大使)  
 (元駐米公使)  
 (I.P.R. 重慶部幹部)  
 (在米實業家「パンフィック」)  
 (前駐日大使館商務官、現駐米  
 大使館東亞問題顧問)  
 (外務省員)

R.A.F.  
 (英領北「ボルトネオ」)  
 (在支「インペリアル」)  
 (インダストリアル「理」)  
 (保守黨代議士)  
 (勞動黨代議士)





新テ九日ニ達リ諸代表ハ次ノ八點ニ付キ「意見一致」ナリ  
 1. 民主主義的ノ日本ノ樹立  
 2. 帝政ノ廢止、Xノ返位及日本國民ニ依ル其ノ追放、但シ便  
 3. 略主權ノ限元者トシテ退位前ニ降伏條約ノ調印ヲ爲サシム  
 4. 一ヨリクシヤ「ポスト」所報、但シ別報ニ依レハ其ノ繼承者ニ  
 5. 依ル調印「事關」ノ網、國民ニ對スル言論及議會ノ自由ノ回  
 6. 復、新シキ憲法ニ依ル民選議會ノ選出（右ニ調シ印度代表「  
 7. パンデイツ」ハ日本人自身ヲシテ選出スルコトハ近代世界ト南立  
 8. ハ日本ノ民主主義化スルコト困難ナルハシト述ヘ、加奈即代表  
 9. ハ「X」カ不可侵權ヲ帶有シテ復讐スルコトハ近代世界ト南立  
 10. ハ「カ」カ「直言」ニ則ル帝國ノ解体  
 11. 即チ一九一四年以來日本カ取得セル太平洋ノ全島嶼ノ剝奪、  
 12. 日本カ支那ヨリ取得セル滿洲、臺灣、澎湖島等ノ重慶ヘノ返  
 13. 還、朝鮮ノ獨立化、琉球及千島ハ聯合國調力戰略上海空軍基  
 14. トシテ兼用スヘキヲ以テ之ヲ放棄セシム（尚大多數ノ代表  
 15. ハ華太南洋ノ對蘇聯渡ニ費成ナル由ナリ）上記地域ニ在ル皇  
 16. 室及政府ノ財產ハ無償沒收シ居住日本人ハ悉ク日本本土ニ歸  
 17. 還セシム  
 18. 占領軍ノ大部分（The major portion）ハ重慶軍隊トス、但シ占

領期間ハ日本ヲ新シテ國際組織ニ復歸セシムル目的ト南立シ  
 4. 得ル限リ短期間トス  
 5. 艦艇及空軍ノ破壞乃至聯合國間ニ於ケル分配ヲ含ム（商船及  
 6. 漁船ノ將來ニ關シテハ意見一致ヲ缺クトノ別報アリ）  
 7. 賠償物資ハ第一ニ日本カ荒廢セシメタル地域ノ復興ニ充ツ、  
 8. 之カ爲一宗ノ輸出工業ヲ許容ス  
 9. 6. 報道自由化（註）ノ日本國民ヘノ適用  
 10. 一註）報道自由化後ノ客年來A P及U Pヲ中心トシ米國ノ  
 11. 通信社カ戰後ノ報道ノ自由ヲ保障スル國際協定ヲ締結  
 12. スヘントノ主張ヲ意味スルモノト思考サル  
 13. 7. 徴兵制度ノ廢止  
 14. 但シ輕武裝治安隊ハ維持セシム  
 15. 8. 照會其後六密締結ノ解散  
 16. B. 討議終了後公表セラレタル報告要旨左ノ如シ  
 17. 一 諸代表ハ戰敗後ノ日本管轄ヲ成功ヤシメ侵略日本ノ再現ヲ防  
 18. 止スヘキ最重要ナル要素ハ結局ニ於テ「聯合國」間ノ關係  
 19. 維持ニシテ此ノ團結力固ク維持ヤラレサル限リ八綱自ノ處理  
 20. 案ハ孰レモ其ノ目的ヲ達成シ得スト云フニ一致セリ  
 21. 一 諸代表ハ「聯合國」ノ無條件勝利獲得ノ共済ノ決意ヲ支持シ  
 22. 右ニ關シテハ何等ノ妥協モ存シ得スト爲ヤリ

B-1077

0395



一、日本ニ課スヘキ管理ノ種類ニ關シテハ代表間ニ見解ノ對立アリタルモ、問題ハ管理ノ寬勝ニアラスニテ其ノ恒久性ニアリト見ルニ於テ一致ナリ

二、諸代表ハ日本占領軍ハ太平洋ニ關係アル全「聯合國」ヲ完全ニ代表スルモノタルヘク、占領軍ノ第一任務ハ侵略指導者ノ迅速ナル逮捕、戦争犯罪者ノ處断、一切ノ「ファシスト」及侵略的指導者ノ一掃、抑壓的立法及制度ノ廢止ニアリトシ、占領ノ程度ハ對日條件ヲ履行セシメ日本人ニ完全敗戦ヲ自覺セシメ食糧配給等ノ最少限度ノ救済ヲ行フニ必要ナル「キイ・ボイシソ」ヲ押フルモノタルヘシト爲セリ

三、諸代表ハ大西洋憲章第八條ニ依レハ一切ノ侵略者ノ武装ハ解テ以テ吾人ハ日本ニ對スル監視ヲ決シテ緩ムヘカラストシ、右ニ關係シ日本ノ軍國主義的傾向ヲ變フル爲再教育ニ依ル日本國民ノ「精神的武装解除」ノ要アリト爲セリ

四、諸代表ハ日本ノ將來ノ侵略ヲ豫防スル最善ノ保障ハ日本内部ニ民主主義的勢力ヲ可及的速ニ發達セシムルニアリ、從ツテ「聯合國」力假令混亂ト不安定ノ惹起ノ危險アリトスルモ日本ノ新シキ自由主義的「民主主義」的勢力ニ自己發現ノ機會ヲ與フルハ望マシキコトナリト爲セリ

五、日本ノ經濟更生問題ハ代表間ニ措意ノ寬嚴ニ付根本的對立ヲ惹起セシメタルカ、日本カ近隣諸國ニ於テ掠奪ヲ行ヒ暴力的

恐怖政治ヲ行ヒタルコト、日本ノ武力侵略ヲ蒙レル諸國ノ自力再建及經濟生活復舊ニ對シ先ツ援助ヲ與フヘク日本人ニ對スル考慮ハ後述シトスルコトニ付テハ異議ヲ見ス

一、日本ヨリ取ル賠償物資ハ日本カ荒廢ニ歸セシメタル尨大ナル地域ノ復舊ニハ足ラサルヘキヲ以テ、賠償ハ損害賠償トイフヨリモ寧ろ太平洋地域ノ安全保障組織強化ノ手段ト考フルコトニ全代表ノ見解一致ナリ

二、諸代表ハ領土ノ變更ニ關シ「カイロ」宣言カ「聯合國」ノ確守政策ナルコト、右宣言ニ言及ナキ領土例ヘハ委任統治諸島ノ如キモ例外ノ戰略的考慮ニ基キ決定セラルヘキコトニ付意見

三、聯合國「側」ノ戰略的考慮ニ基キ決定セラルヘキコトニ付意見

四、日本處置ニ關シ現ハレタル主ナル提言次ノ如シ

（一）ヒソソノ「處理案」

（二）IPR 研究部員「F. A. Bisson」ノ提出セル研究報告ハ要旨次ノ如ク結論ス

一、日本處置ノ永久策ハ戰爭中「カルテル」化ヲ極端ニナル其ノ獨占的工業財閥ヲ滅シ之ニ再建ノ機會ヲ與ヘサルヲ旨トスヘシ、彼等ニシテ勢力ヲ挽回セン九石ハ日本ノ帝國主義ヲ再興ノ機ヲ狙ハントスル分子ヲ結果スルニ至ルヘシ

二、日本憲法ノ下ニ於ケル舊式官僚主義的國家機構ハ解体スヘシ、之カ存續ハ天皇制ノ存續ヲ意味シ日本ノ侵略再開ノ

B-1077

0396

日本ノ經濟的將來ニ關シ一重慶代表ハ左ノ見解ヲ述ベタリ  
 日本政府カ有能ナル民主主義的指導ヲ行ヒサヘスレハ日本ハ  
 世界平和ヲ脅威スルコトナク、安易一本ニテ生存ヲ期シ得  
 ルモノナリ、地運的理由ニ依ルモ神ハ日本ヲ一等國タラシム  
 ルノ意思無カリシハ明ニシテ、余ノ見解ニ依レハ日本ハ二等  
 國ノ筆頭トシテ存在スヘキナリ

(四) 朝鮮人問題及日本技術者利用論  
 重慶首席代表ハ朝鮮人ノ將來ニ關シ左ノ如ク述ベタリ  
 支那ニ於ケル日本ノ占領地ニハ日本ノ一チスリシテタリシ  
 多數ノ朝鮮人アル處、彼等ヲ在重慶朝鮮臨時政府ノ臣民トシテ  
 取扱フヘキヤ、或ハ敵性日本臣民トシテ取扱フヘキヤハ決定困  
 難ナル問題ナルヘシ、吾人ハ戰後日本ノ浸透ニ耐ヘ得ル如  
 キ強力ナル朝鮮政府ノ奇立計畫ヲ要ス、戰後日本ノ熱練校  
 術家ヲ全部全土其他諸島ノ友好諸國ニ分散、朝鮮ヤシムルコ  
 トハ日本工業復興ニ必要トスヘキモ、彼等カ仕事ヲ終ヘ熱練ノ履ヲ  
 高メ日本ニ請ルコトハ危險ナルヲ以テ復興計畫ハ永久ニ止メ  
 サルヘシ

(六) 太平洋植民地ノ將來  
 本議程ノ討議ヲ通シ、現レタル願望ナル傾向ハ亞細亞代表ノ植民地  
 ノ自治乃至獨立化ヘノ要望ニシテ、聯合國ニ依ル植民地國家廢止  
 宣言ノ提唱、一大國ハ植民地ヲ世界全体ノ委託ヲ受ケ之ヲ獨立ヘ

凡ユル基本的要因ヲ存續ヤシムルコトナルヘシ  
 一、對日處理ノ要諦 The first requirement  
 止シ日本國民ノ自由ナル意思ヲ以テ選出ヤラルヘキ立憲的  
 憲法ヲシテ新シキ民主主義ノ基礎ヲ確立ヤシムルコトニアルヘシ

(一) シヨウ・ポールドウイン「英空軍元帥」ノ日本管理案  
 一、日本本土占領軍ノ主体ハ亞細亞人トスヘキモ、別ニ英、米、蘭  
 三國カ佛海軍ヲ參加ヤシメテ日本周邊ニ國際海軍ヲ配置ヤ  
 ハ西歐諸國ハ日本本土ニ相當數ノ軍隊ヲ永クニ駐屯セシ  
 ムルニ及ハスシテ日本將來ノ侵略ヲ防止シ待ヘシ

二、日本ニ海外ノ市場ト資源ヲ利用ヤシムル方、之ヲ完全ニ外部  
 ヨリ遮斷シ國內資源ニ依存ヤシムルヨリモ日本ノ取柄リヲ容  
 易ニシ同國ノ民主的發展ヲ促進スヘシ、兼シ聯合側ノ領海空  
 補ハ必要アラハ何時ニテモ日本ヲ市場及資源ヨリ切斷シ待ヘ  
 ク、又同國ヲ封鎖時代ノ昔ニ追込ミ國民ノ憤懣ト復讐心ヲ醸  
 成スルノ危險ヲ回避シ待ヘキカ故ナリ

三、日本ノ航空機工業ハ廢棄ヤラレ民間航空ハ聯合側ノ航空機ト  
 操縦士ヲ以テ行ハルヘシ

(三) 財閥處罰論  
 戰爭犯罪者處罰ニ關シ、軍閥ノミナラス軍閥ニ協力ヤル日本ノ  
 海力富裕ナル財閥ヲ其ノ情狀ニ應ジ死刑、拘禁、強制勞務等ヲ  
 以テ處罰スヘシトノ意見唱ヘラレ、大多數ノ代表ハ之ヲ支持ヤリ

(四) 重慶ノ戰後日本經濟論  
 一、日本ノ航空機工業ハ廢棄ヤラレ民間航空ハ聯合側ノ航空機ト  
 操縦士ヲ以テ行ハルヘシ

B-1077

0397



「シモンウエリス」の新シキ政治的地位ヲ享有セシメントノ意圖  
 ハ左ノ如ク補足セリ  
 佛國ハ既ニ法律的ニ佛印ノ關稅獨立ヲ認メ居リ、將來ハ「ニ  
 ニ」カレドニアート共ニ聯合國世界機關、一員タラシムルコ  
 トトナルヘシ、太平洋ノ佛國領ハ戰後モ從前ノ地位ヲ維持ス  
 ルコトトナルヘシ

C  
 香港ノ將來  
 重慶代表ハ戰後香港ノ支那ヘノ讓渡ヲ要望シ新ル讓渡ハ英帝國  
 ニ惡影響ヲ及ホササルヘント述ヘタルカ、英國代表ハ英國ニ割  
 讓ヤブレタル際人口僅ニ百三十人ナリシ香港カ百年後ニ於テ巨  
 萬ノ人口ヲ誇ルニ至リ然モ其ノ大部分カ支那人ナル事實ハ英國  
 統治ノ價值ヲ實證スルニ足ルモノナリト述ヘ反對シタリ

D  
 「ビルマ」代表「英代表部ニ願スト認メラル」Toong June Gyan  
 「ビルマ」代表「英政府顧問」ハ左ノ如ク述ヘタリ  
 「ビルマ」國民ハ英帝國ヨリ離脱スルノ意思無シ、蓋シ「ビ  
 ルマ」ノ長延且脆弱ナル海岸線ハ英國ノ武力組織ニ依ラヌハ  
 防備シ難ハサルカ故ナリ、「ビルマ」ハ今日猶英帝國ノ本質的  
 ナル一部ニシテ其ノ防衛ハ英國ノ責任ナリ、「ビルマ」  
 國民ノ次ノ目標ハ戰争終了後數年ノ間ニ自治領ノ地位ヲ獲得  
 スルコトナルカ、自治領トナルモ「ビルマ」ハ英帝國ヨリ脱

ノ進歩ヲ促進スルカ如ク統治スヘシトノ條項ヲ「ダンバートン」  
 オークスニ榮ニ挿入スヘシトノ提案及右條項ヲ實効的ナラシムル爲  
 植民地及非植民國双方ノ專門家ヲ以テ一般國際機關ヲ作り太國ノ  
 植民地統治狀況ヲ査察セシムヘク「歐洲代表提案」且大國ラシテ  
 統治ニ關スル報告ヲ定期ニ提出セシム、又該機關ニ植民地住民  
 ノ不備ヲ研究シ其ノ結果ヲ公表セシムル權限トヲ賦與スヘ  
 シ「印度代表提案」トノ提案ハ之カ替例ナリ、右ニ對シ植民地保  
 有諸國ノ代表ハ各自國ノ統治ヲ自護シ植民地ノ自治能力ノ認定ヲ  
 自國政府ニ留保スルノ態度ヲ持シ讓ラサリシカ、結局大多數ハ右  
 原則ヲ受諾セル由ナリ

A  
 廣州ノ將來  
 佛代表「ナジヤール」ハ廣州ノ將來ニ關シ左ノ趣旨ヲ述ヘタリ  
 廣州灣ノ問題ハ佛支間ニ於テ兩國ノ友好的傳統ニ立脚シ友好  
 的ニ解決セラルヘシ、佛國ハ英米ト同一ノ政策ヲ採リ一切ノ  
 不平等條約ハ廢棄セリトスルモノナリ、全歐諸國ハ支那ニ  
 於ケル其ノ特殊權益ノ放棄ヲ計畫シアリ、支那ハ偉大ナル將  
 來ヲ有スルモノナルカ、佛國ハ支那ノ完全ナル國家ヘノ發展  
 ヲ阻害スル如キ行動ハ欲セサルヘシ

B  
 安南代表 Toa Kim Jai  
 佛印ノ將來  
 佛印ノ政治的地位ニ關シ佛印  
 ハ將來自治ト完全ナル自由ヲ希望スルモノナルカ、佛印政權最  
 近ノ植民政策ニ關スル諸宣言ハ佛本國カ佛印民衆ヲシテ佛政最

B-1077

0398

E

退スル能ハス、長キナル海岸、亦ト云、海峽ハ稀少ナル人口ヲ以テシテハ、  
 底防備シテハサルカ、故ニ、乍然吾人ノ真ノ防衛線ハ世界安全保障  
 機構ニアラズ、以テ「ビルマ」ハ自治領ノ地位ヲ與ヘラレタル  
 後ハ右機構ニ代表ヲ派遣セント欲スルモノナリ

蘭印ノ立場

蘭印代表「ジユメナ」ハ左ノ趣旨ヲ述ヘタリ

日本ノ東亞占領地ニ於ケル行動ハ其ノ言葉ヲ裏切レリ、日本  
 ノ獨立及其榮ノ約束「亞細亞」ノ「亞細亞」ナル標語ハ蘭印民  
 衆ノ多クテ左ノ右スヘシト考ヘタルヘキモ、日本占領地ノ現地  
 ニ於ケル行動ハ日本政府ノ爲セル約束ヲ一々否定セリ、一イ  
 ス、從ツテ客年九月日本首相ノ爲セル調達機構ヲリシニ過キ  
 キ民衆ハ之ヲ「アブリシエイト」セザリシ次第ナリ、然シ民  
 衆ハ日本軍力纏逐ヤラレタル後ハ西洋人カ其ノ約束ヲ實行ス  
 ルヲ期待スルモノニシテ、蘭印ノ外交ハ和蘭ノ夫レモ調整セ  
 ラルヘキモ、和蘭女王ノ蘭印ニ對スル自治試與ノ約束ハ留保  
 セントス

比島ノ立場

比島代表「ガイラ」ノ所言次ノ如シ

比島ニ對スル限リ島民ノ總政府ニ對スル一貫ナル忠誠ハ一  
 レイテ「ニ上」ニ限リ島民ノ總政府ニ對スル一貫ナル忠誠ハ一  
 結果セル事實ヲ以テシテモ明ナルヘシ、歐洲ニ於ケルト異リ

G

愛國的一「ゲリラ」部隊ト「オスマニア」政府トノ間ニ紛争無  
 ラレ居ル事實カ證明スヘシ

「自由」代表「ブラモイ」ノ所言左ノ如シ

歐洲ニ於テ「ナチ」カ「デンマーク」ヲ其ノ「飾」リ窓「下」考ヘタ  
 ル如ク日本人ハ國初以來獨立國ナリシ榮ヲ亞細亞ニ於ケル其  
 飾「リ窓」ト爲シ來リ、國民ハ大ナル脅威ヲ受クルコトナク  
 其ノ財貨ハ掠奪ヤラレコトナク、國土ハ荒廢セシメラレ居  
 ラス、併シ國民一人モ「日本」人ヲ憎惡シ居リ唯征服者ヲ追  
 ヒ、名ニ内心大ナル誇ヲ抱キ居レリ、ハ自由ヲ意味シ國民ハ此  
 ノ中央部カ欲スルモノハ「日本」人ノ亞細亞ニシテ「亞細亞」人  
 ノ亞細亞「代表」ハ日本ノ占領地行取ハ全般ノ吾人ニ被ヘタリ  
 尙東亞地域諸代表ハ日本ノ占領地行取ハ全般ノ吾人ニ被ヘタリ  
 本官吏ノ精神状態ト其ノ無智ハ一時ハ「共榮」ノ押賣者ヨリ何  
 物カヲ期待セル東南亞細亞ノ民衆ニ強キ印象ヲ與ヘタルモノナリ  
 ハ然ラスト匹ヘタル由ナリ

「聯合國」宣言案ヲ試ミ、大多數ノ支持  
 ヲ得タリ

B-1077

0399



リ、米國代表ハ支那カ民主主義的收策ヲ發展サシメ其ノ成績上  
ニ對シ重慶代表ハ支那ノ共黨ノ問題ハ孰レ解決セラルヘキモ  
民主主義ノ實現ハ七年半戰爭ニ備ミ來レル國ニ於テハシカク簡  
單ナルモノニアラスト應認セリ

**B**、太平洋地域ノ生活水準向上

太平洋諸國ノ生活水準ハ技術ノ改善ト設備ノ改良ニ依ル資源ノ  
開發ヲ以テシテノ生活上セシメラルヘク、右原則ハ農業、運輸  
通信、公共事業、加工業等太平洋經濟ノ全部門ニ適用セラレサ  
ルヘカラス、農業ノ發展ハ重要ナリト雖モ生活水準ノ實質的改  
善ハ農業以外ノ經濟部門ノ工業化カ顯著ニ促進セサル限り不可  
能ナリ、低生活水準ノ原因ハ農村ノ過剩人口ト農業ト工業トノ  
間ノ不均衡ニアリ、右ハ工業ニ過剩ノ勞力ヲ供給スルコトニ依  
リテ起ルモノナリトシテ、右ハ工業ノ進歩ヲ促進シ、技術者、工  
人、如ク工業化ハ多額ノ資本投下ヲ必要トスル處太平洋諸國ノ  
蓄積資本ノミラテシテハ到底足ラス外資ヲ借入ル要アリ、外  
資借入レカ不可能ナリトハ一層民衆ノ收入以上ニ物價ヲ昂騰サシメ愈  
々生活水準ヲ低下セシムルノミナリ、爾餘世界ハ凡ソ原料ノ  
需要ヲ刺戟シ、次にテ本財ノ需要ヲ増大セシムルニ依リ、

(二) 太平洋地域ノ經濟復興與問題

**A**、支那ノ經濟復興

諸代表ハ支那將來ノ經濟的福祉ハ民主主義的收策ノ發展ヲ含ミ  
支那カ政治的安定ヲ實現シ得ヘキヤ否ヤニ依存ス、從テ支那ノ  
長期的復興ハ政治的安定ヲクシテハ不可能ナリト云フニ一致セ

本問題ハ英國代表「サンソン」ノ議長トシテ討論セラレタルカ之  
カ要領次ノ如シ

- 一、聯合國ハ一民族一國民ハ其ノ先天的優秀性ノ故ニ他民族一  
國民一ヲ支配シ或ハ他民族一國民一ノ保護ヲシタルヘント云フ  
如ク不善良民族「マススターレイ」ノ理論ハ強ク排斥ス
- 二、聯合國ハ全民族一國民一ノ基本ニ平等ナルヲ宣言シ、全民  
族一國民一ノ平等ノ利益ヲ享受セシムル如ク不斷ニ努力  
スヘキヲ誓約ス
- 三、聯合國ハ殖民及從屬國民衆並ニ一國ニ於テ完全ナル社  
會的、經濟的、政治的權利ヲ享有セサル一切ノ民衆又ハ集團  
ニ對スル普遍的國際責任ノ原則ヲ宣言ス
- 四、聯合國ハ「ダンバートン」ノ「オックス」ノ規定スル「總督」ノ全般  
的責任ノ下ニ於テ一地域的理事會」ノ設置ヲ勸告ス、右理事  
會ハ太平洋ノ從屬的地域ニ關スル限り宗主國ニ對シ其ノ支配  
領域ニ自治制度ヲ發展サシムル如キ全般的政策ヲ勸告スル權  
限ヲ有スルモノトス、但シ右ニ關スル立法及行政ハ當該國ノ  
責任トス

C、貿易障壁ノ除去ト代替品ノ問題  
 米國代表ハ太平洋ヲ含メ、諸國代表ハ、貿易障壁ノ除去ハ、必要ナリ、作然必要ナルハ、不  
 斷ニ擴大シ、且過去ニ於ケル如ク、深刻ナル景氣循環ノ影響ヲ受ケ  
 ルコトナリ、世界經濟ノ進歩ニシテ、石ハ國際協働ニ依リテ、實現シ得ヘシ  
 益スヘシ、但シ資本價値ハ、勿論、以テ、同ササルヲ要スル處、右ニ田來スル新  
 規工業ノ發達、又ハ、既存工業ノ擴張ハ、海外市場ノ發育ヲ必要トスヘシ、從テ太平  
 洋地域ノ新資源ノ開發、乃至技術ノ發達ヲシテ、世界ノ進歩ニ寄與  
 せん、メントトヤハ、貿易障壁ノ除去ハ、必須ナリ、作然必要ナルハ、不  
 斷ニ擴大シ、且過去ニ於ケル如ク、深刻ナル景氣循環ノ影響ヲ受ケ  
 ルコトナリ、世界經濟ノ進歩ニシテ、石ハ國際協働ニ依リテ、實現シ得ヘシ  
 米國代表ハ、太平洋ヲ含メ、諸國代表ハ、貿易障壁ノ除去ハ、必要ナリ、作然必要ナルハ、不  
 斷ニ擴大シ、且過去ニ於ケル如ク、深刻ナル景氣循環ノ影響ヲ受ケ  
 ルコトナリ、世界經濟ノ進歩ニシテ、石ハ國際協働ニ依リテ、實現シ得ヘシ

今ヨリ、決定スルハ、向早ナリト、應酬セルカ、米側ノ一般の意見ハ  
 米國ハ、戰爭ニ起因スル幾多ノ技術的發明品ヲ、戰後廢棄スルコト  
 トナルヘク、代替品ノ「コスト」力天然原料ヨリモ高ク、ツク場  
 合ハ、特ニ然ルヘシトイフニ、アリ、英側ハ、米國ハ、貿易上ノ平  
 等原則ヲ支持スル以上、太平洋亞原料ノ非買力賣スヘシ、經濟上ノ  
 均衡破綻ト、攪亂トヲ、無視シ得サルヘシ、旨ヲ強調シ、米國經濟力  
 均衡破綻ト、攪亂トヲ、無視シ得サルヘシ、旨ヲ強調シ、米國經濟力  
 戰後モ、活況ヲ、持續スルニ、於テハ、米國ハ、輸入ヲ、戰前ノ「レベル」  
 二十五億弗ヨリ、七十億弗ニ、増加セシメ、得ヘシト述ヘ、英側ノ戰  
 後、意圖ヲ、示セリ  
 D、印度ノ經濟的發展  
 印度ハ、戰後ノ經濟的膨脹ヲ、欲スルモノナルカ、右ハ、爾餘ノ、世界  
 ノ利益スルコトナルヘシ、印度ノ經濟的自給ハ、印度國民運動  
 ノ目的ニ、ハ、ラス  
 (外) 太平洋集團の安全保障問題  
 諸代表ノ見解ハ、太平洋ノ集團の安全保障ハ、「聯合國」ニ依リ組織  
 セラレ、サレ、限リテ、所期シ得スト云フニ、於テ、一致ヲ示シ、又理想  
 派ハ、餘リニ多ク、企圖シテ、失敗スヘシト見ル向キト、現實派ハ、爲  
 スコト、少クシテ、失敗スヘシト見ル向キト、現實派ハ、爲  
 要カ、強調セラレタリ、各代表ノ見解、次ノ如シ  
 英國代表  
 日獨ノミナラズ、他ラ、ク、一聯合國、強國、常任國ヲ、モ含メ、如何  
 ナル國ノ、脅威ニ、モ對抗シ、得ヘキ、集團の安全保障ノ、組織ニ、ハ、一初

B-1077

0401



四 聯合代表  
 加奈代表  
 防止シ待ヘシ一全代表費成ス  
 重慶代表  
 泰國的安全保障成功ノ要諦ハ大國モ亦一聯合國運籌會ノ決定ニ由ルコト及西歐ニ於ケル如ク眞ノ指導者ヲ統クヲ以テ未タ特別ナル安全保障機構ヲ設クル程度ニ達シ居ラサルモノトモ考ス。支那トシテハ佛國ト同様「カンバートン」オーグメント如キ世界の機構ニノミ參加セント欲ス  
 比島代表  
 吾人ハ「オスマニア」大統領カ最近提議セル「太平洋ニ於ケル共同附會案」ヲ支持スルモノナリ。比島民ハ世界的乃至地方的安全保障機構ヘノ參加ヲ熱望ス  
 印度、蘭印及「ビルマ」諸代表ハ國際機構カ歐洲乃歐米國ノ編纂ヲ塞テトササル限リ之ニ參加ヲ希望スルモノナリト述ヘタルカ「ビルマ」代表ハ「ビルマ」ハ自治領ノ地位ヲ與ヘラレサル限リ實際上該機構ヘノ參加問題ヲ考究シ得ストシ、印度代表ハ亞細亞ハ歐洲下對等ニ動作スル爲該機構ニ參加スルニ先立テ先ツ自己ノ指導者ヲ必要トス。大國ハ印度支那ノ如キ國家ノ權力化ヲ援助スヘキナリト述ヘタリ

聯合代表ノ團結カ前提要件ナリ  
 日獨ニ對シ一定ノ經濟的拘束ヲ課スルコトニ依リ將來ノ戰爭ヲ防止シ待ヘシ一全代表費成ス  
 泰國的安全保障成功ノ要諦ハ大國モ亦一聯合國運籌會ノ決定ニ由ルコト及西歐ニ於ケル如ク眞ノ指導者ヲ統クヲ以テ未タ特別ナル安全保障機構ヲ設クル程度ニ達シ居ラサルモノトモ考ス。支那トシテハ佛國ト同様「カンバートン」オーグメント如キ世界の機構ニノミ參加セント欲ス  
 比島代表  
 吾人ハ「オスマニア」大統領カ最近提議セル「太平洋ニ於ケル共同附會案」ヲ支持スルモノナリ。比島民ハ世界的乃至地方的安全保障機構ヘノ參加ヲ熱望ス  
 印度、蘭印及「ビルマ」諸代表ハ國際機構カ歐洲乃歐米國ノ編纂ヲ塞テトササル限リ之ニ參加ヲ希望スルモノナリト述ヘタルカ「ビルマ」代表ハ「ビルマ」ハ自治領ノ地位ヲ與ヘラレサル限リ實際上該機構ヘノ參加問題ヲ考究シ得ストシ、印度代表ハ亞細亞ハ歐洲下對等ニ動作スル爲該機構ニ參加スルニ先立テ先ツ自己ノ指導者ヲ必要トス。大國ハ印度支那ノ如キ國家ノ權力化ヲ援助スヘキナリト述ヘタリ

B-1077

0402